

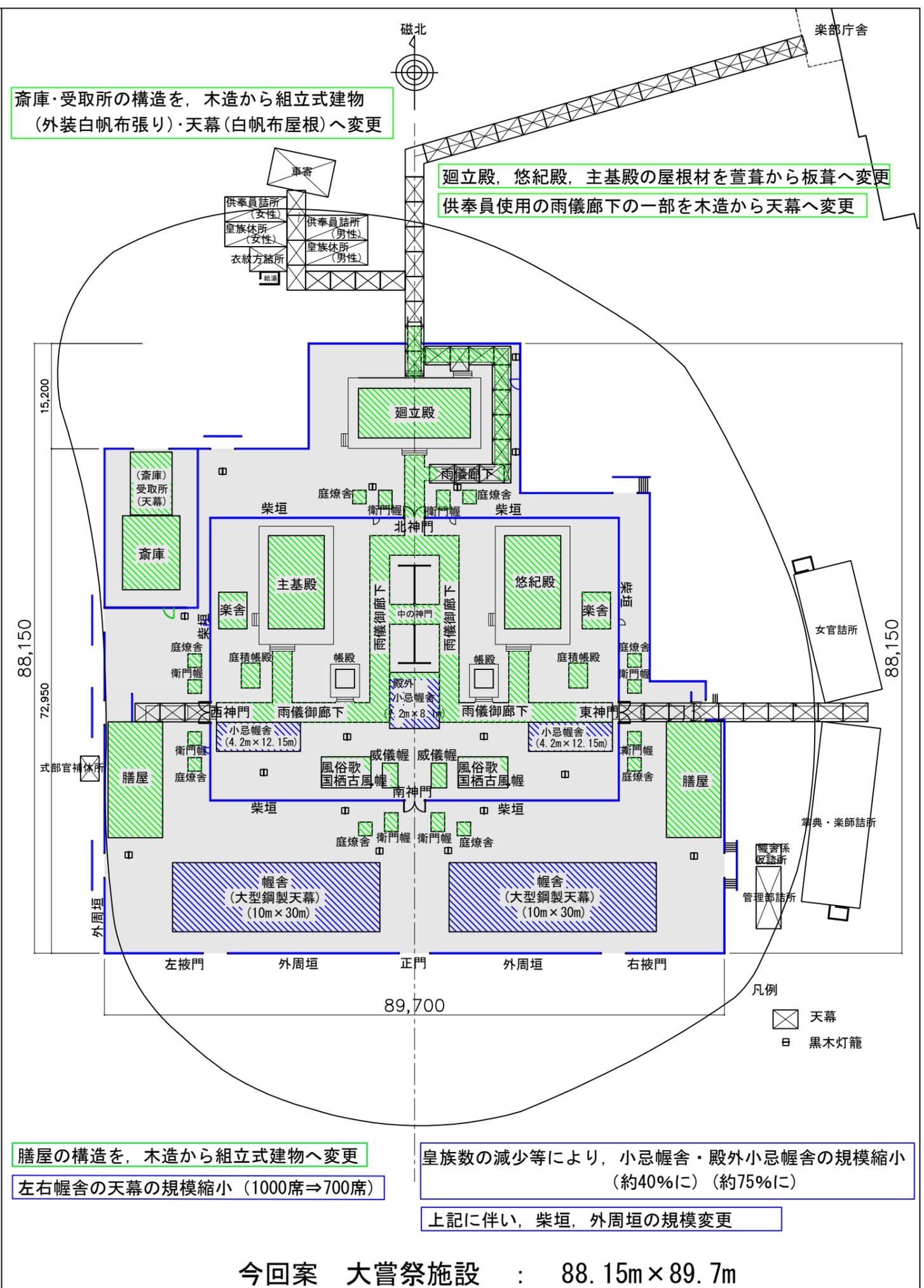
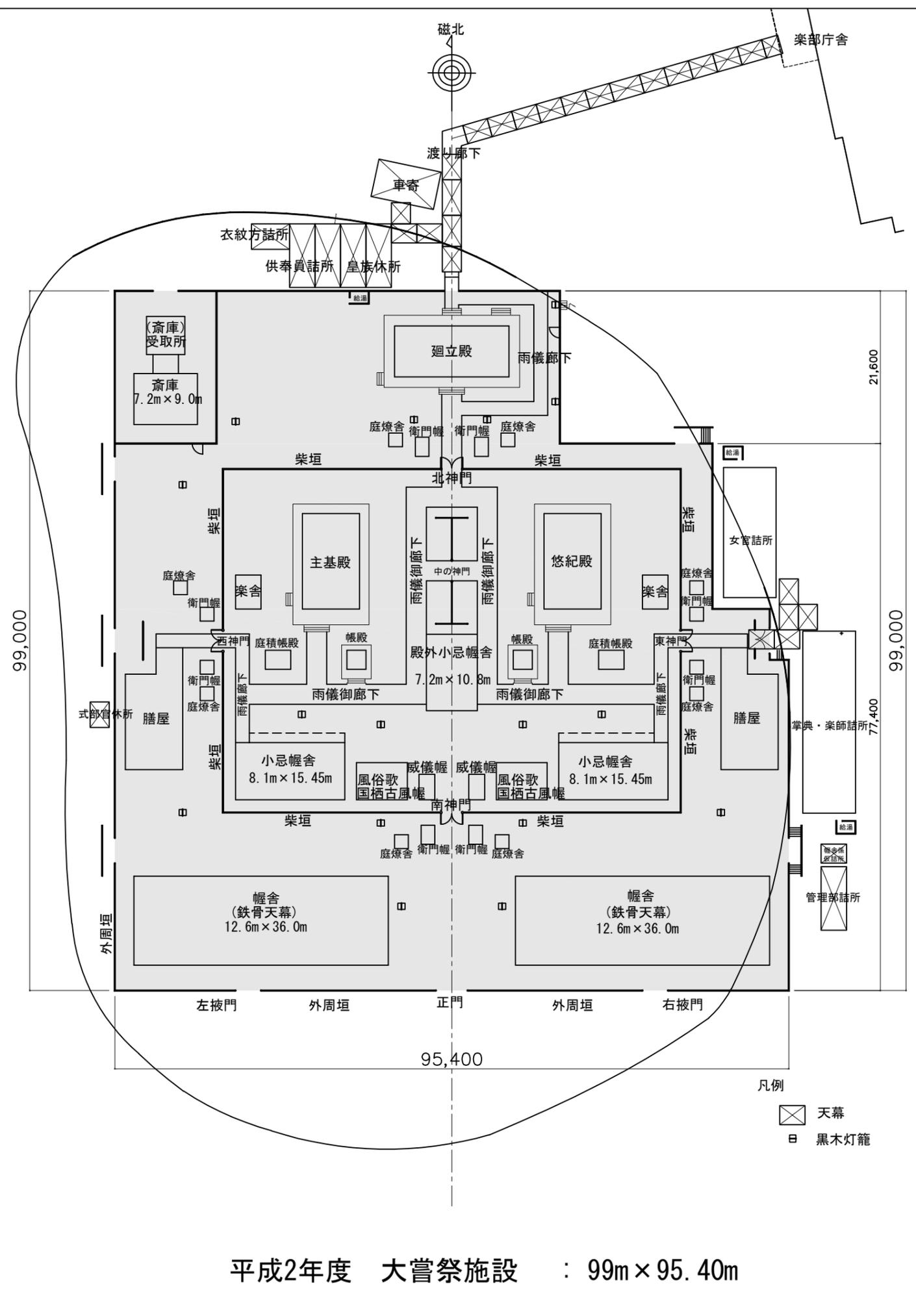
平成 30 年 12 月
管 理 部

今次の大嘗宮の設営方針について

大嘗宮は、歴史上様々な規模・形態で推移してきたところ、近代以降、明治大嘗宮を経て、大正・昭和に定型化され、平成度は、昭和大礼の際の大嘗宮に準じて設営されたもの。

今次の大嘗宮については、基本的には前回の平成度の大嘗宮に準拠した上で、皇族数や参列者数に応じた一部施設の規模の変更や儀式の本義に影響のない範囲での工法・材料の見直しなどを行い、建設コストの抑制にも留意しながら設営を行う。

また、今回は、大嘗宮が設営される皇居東御苑の休園措置、大嘗祭終了後の解体資材の原則的廃棄など、前回、大嘗宮の設営に伴って取られた諸措置についても、諸般の情勢の変化を踏まえ、所要の見直しを行うこととする。





平成2年大嘗宮 模型写真



今次 大嘗宮 イメージ写真

大嘗宮設営に係る規模，仕様等の変更（案）について

項目		平成時	今回（案）	備考
1. 主要三殿	屋根材	萱葺	板葺	
2. 小忌幄舎(2棟)	規模	125.145㎡ (8.1m×15.45m) × 2棟	51.03㎡ (4.2m×12.15m) × 2棟	皇族数の減少 平成時の約40%
3. 殿外小忌幄舎	規模	77.76㎡ (7.2m×10.8m)	58.32㎡ (7.2m×8.1m)	平成時の約75%
4. 雨儀廊下 (供奉員使用)	規模	約94m	約40m	縮小
	仕様	木造	天幕（白帆布屋根）	
5. 柴垣	規模	東西64.8m×南北48.6m×高さ1.1m	東西58.1m×南北40.85m×高さ1.1m	
6. 膳屋（2棟）	構造	木造（外装むしろ張り）	組立式（外装むしろ張り）	
7. 幄舎（2棟）	規模	453.6㎡ (12.6m×36.0m) × 2棟	300㎡ (10m×30m) × 2棟	参列者1,000人→700人
8. 斎庫・受取所	構造	木造	組立式（外装白帆布張り）・天幕 （白帆布屋根）	
9. 外周垣	規模	東西95.4m×南北99m×高さ2.5m	東西89.7m×南北88.15m×高さ1.1m	

※なお，各種柱については，一部，皮付丸太から角材に変更する。